

核の傘の下にいる同朋達の命を預かる方々へ

瓜生田 秀徳

2022年に始まったロシアによるウクライナ侵攻、その翌年にはパレスチナのガザ地区で紛争が起きました。未だに世界各地で争いは絶えることはありません。このような混沌とした状況の中、核兵器が使用される可能性はゼロであるとは言い切れません。

あなたの国は核の傘に守られているのでしょうか？それとも守られている気になっているだけなのではないのでしょうか？私は後者ではないか、と思います。

核保有国と同盟を結び、気に食わないことさえしなければ守ってもらえる。核兵器を持つ国が同盟国である限り、核という強大な盾を得ているとあってよいでしょう。換言すれば核の傘で戦争という火花を防ぐことができるということです。しかしその盾は、剣となって我々に向かってくることさえあるのです。あなたの国が同盟を結ぶ核保有国にとって都合の悪い存在となったケースが例として挙げられます。そうです。今まさに現在進行形で起こっているウクライナ侵攻の理由そのものなのです。核の傘に守られている間は戦争の惨禍とはほど遠い場所であって、平和を享受できるかもしれません。しかしそうして得ている平和な状態は、傘の持ち主の機嫌で一変するのです。そして何より恐ろしいのは核兵器を保有している国は一国ではないという点です。たとえ核の傘の持ち主の機嫌を損ねずとも、核兵器による攻撃は受ける可能性があるのです。限りなく低い可能性ではありますが、それでも今なお世界に1万発以上の核兵器が存在している時点で核兵器による攻撃が起きないと断言はできないでしょう。

第二次世界大戦の終結からいよいよ79年を迎えようとしている今日、幸いにも核兵器により多くの尊い命が失われるという最悪の事態は起きてはいません。この先も、核兵器が使われることはあってはならないのです。しかし核兵器がこの世に存在する以上、いつどこで使われるか分からないのです。核兵器が日本に投下されてから79年、その間に科学技術は大きく進歩しました。広島や長崎を上回る破壊力を持った核兵器が世界中に眠っています。核の傘としてその下にいる我々を守ってくれているのは、牙を見せていない眠っている猛獣です。檻に閉じ込められているうちは、その猛獣が誰にも危害を加えないことは明らかでしょう。ですがその檻を管理しているのは、私達と何ら変わらない人なのです。違いがあるとすれば住む国や肌の色、喋る言語等のささやかなもの。感情により動き、過去のことを容易く忘れてしまう人という生き物が取り扱っている以上、いつかは使われてしまうかもしれないのです。79年前の悲劇を再び起こさないようにするためには、今も世界中に眠る核兵器という猛獣を殺すしかないのです。

不安もあるでしょう。核の傘の下にいる我々は、核兵器によって守られているのだから自分達を守る盾を手放したくはないはずですが、ですが我々は本当にこのままでよいのでしょうか？人類を滅ぼしかねない武器がこの世に存在していることをいつまで容認するつもりでしょうか？もしあなたが、自分の国を防衛する手段としてしか核兵器を見ることがで

きないならば、一度長崎へ来るべきです。そして原爆資料館で核兵器による攻撃を受けた長崎の街の様子や人々の苦しみを、目を背けずに見てください。すさまじい破壊力は街や人々だけでなく、今を生きる我々にも大きな衝撃をもたらします。核兵器は絶対に使ってはならないものであり、ましてや最終手段などとぼやかされた位置づけで存在させておいてはいけないものだとはっきり分かることでしょう。

私があなた方をお願いしたいことは2つあります。まずはあなたの国の、1人でも多くの人に長崎へ来ることを呼びかけてもらいたいのです。残念ながら広島や長崎に原爆が投下された日付や時刻を知らないという人が、被爆国である日本にいます。それならば海を隔てた他の国々の人達は、もしかしたら日本に原爆が投下されたということ自体を知らないかもしれません。知らなければ何も始まりません。知ることこそが全ての始まりなのです。そして次にあなた方から世界へ発信してください。「我々にはもう、核兵器は必要ない」と。誰も声を上げなければ、世界は変わりません。変わるどころか、悪い状況へと向かうことだってあるのです。

核兵器によって人類が滅亡するのが先か、それとも人類が核兵器を放棄するのが先か。核の傘の下にいる同朋の命を預かる方々へ、どうか賢明な判断をお願いします。